

# 令和6年度「全国学力・学習状況調査」 ～鳴門市の結果の概要と今後の対応～

鳴門市教育委員会

## 1 はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習や生活面の改善などについてご理解とご協力をいただくために、今年度の全国学力・学習状況調査結果の概要をご報告いたします。鳴門市教育大綱の基本理念「ともに学び 育ち合う 共育のまち鳴門」のもと、全ての児童生徒の学びに向かう力の育成と学力向上のために、学校教育においてはもちろん、家庭や地域とともに今後も取り組んでまいります。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定学年の学力・学習状況調査であり、調査結果は本市児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

## 2 全国学力・学習状況調査について

### (1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査実施日 令和6年4月18日(木)

### (3) 調査対象とする児童生徒・調査内容

小学校第6学年児童 12校 417名 国語、算数、児童質問調査  
中学校第3学年生徒 5校 333名 国語、数学、生徒質問調査

## 3 令和6年度調査の概観

本市の小学校においては、国語・算数ともに平均正答率が全国・県を下回りました。中学校においても、国語・数学ともに平均正答率が全国・県を下回りました。

平均正答率の分布に着目すると、小学校・中学校ともに、平均正答率が低い児童生徒の割合は全国・県よりも高く、平均正答率が高い児童生徒の割合は全国・県よりも低くなっています。それぞれの児童生徒の現状と課題を把握し、個に応じた取組を通して、学力の定着を図ることが重要です。

評価の観点から見ると小学校では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」を要する内容に課題が見られます。中学校でも、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」を要する内容に課題があります。また中学校では、記述式問題に対する無解答率の高さも、課題であると考えられます。

質問調査、質問調査と平均正答率とのクロス集計からも、「思考力・判断力・表現力」の向上や「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に課題が見られました。児童生徒が主体的に学び、自分の考えをしっかりともちながら、表現し合える授業のあり方について、研究と改善を行うことが学校教育に求められます。

また、学習習慣や生活習慣の確立のためには、学力と関係が深いと考えられるやり抜く力、自制心や勤勉性といった非認知能力の育成を目指して、学校と家庭、地域社会が連携し取り組んでいくことが必要です。

## 4 平均正答率（教科に関する調査）

### (1) 平均正答率

校種・教科	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
鳴門市	64.0	61.0	55.0	47.0
徳島県	68.0	65.0	57.0	54.0
全国	67.7	63.4	58.1	52.5

## (2) 各教科における正答率が高い児童生徒、正答率が低い児童生徒の割合

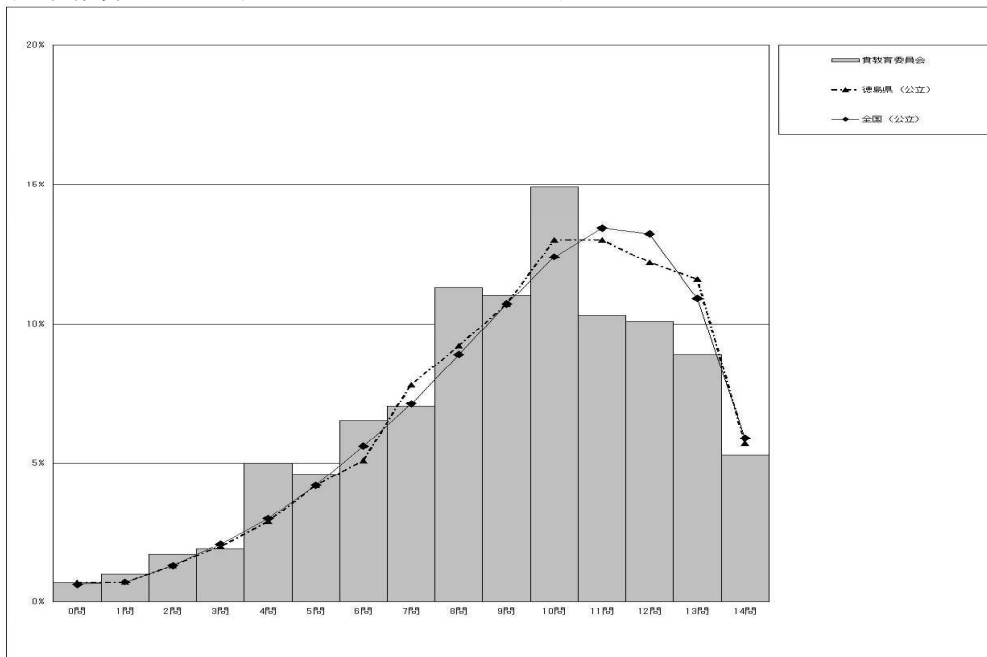
校種・教科 児童生徒の割合 (%)		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
正答率 高い*1	鳴門市	34.6	30.5	25.2	26.7
	徳島県	42.5	35.5	32.4	36.8
	全国	43.4	33.7	33.5	34.3
正答率 低い*2	鳴門市	28.4	28.7	31.5	26.4
	徳島県	24.7	22.9	28.3	20.5
	全国	24.6	25.9	26.5	20.3

- \*1 正答率高い 小学校 国語 11/14 (約 79%) 以上、算数 13/16 (約 81%) 以上  
 中学校 国語 11/15 (約 73%) 以上、数学 11/16 (約 69%) 以上  
 \*2 正答率低い 小学校 国語 7/14 (50%) 以下、算数 7/16 (約 44%) 以下  
 中学校 国語 6/15 (40%) 以下、数学 4/16 (25%) 以下

## 5 教科に関する調査結果

### (1) 小学校 国語

〈正答数分布グラフ〉 (横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校国語			平均正答率 (%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
1 一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。(選択式)	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。	56.8	60.4	62.5
2 一 (2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。(選択式)	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	81.8	86.4	86.9
2 二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く。(記述式)	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	51.3	54.6	56.6

## 概要

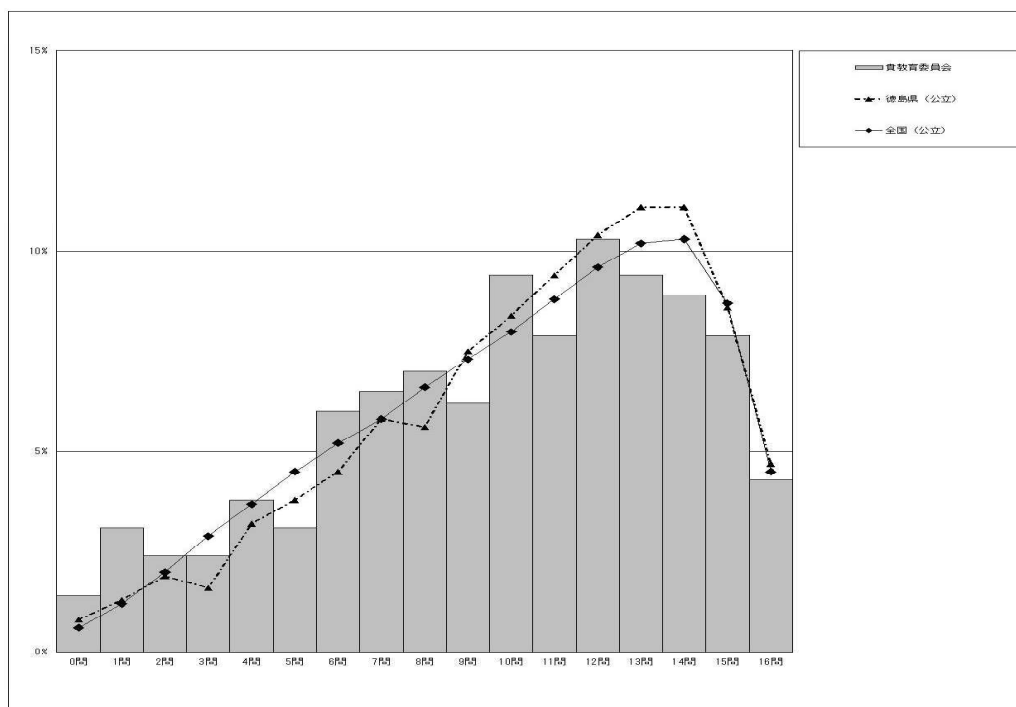
- 学習指導要領の内容では、「知識及び技能」の「情報の扱いに関する事項」の正答率が全国・県を5%以上、下回り、「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」、問題形式では「記述式」の正答率が全国から4%以上、下回り、課題が見られます。
- 問題2二から、目的や意図に応じて書く、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、複数の条件を満たす文章を書くことに課題があると考えられます。
- 文章や情報を正確に読むことに、課題があることが見受けられます。
- 問題1一から、目的や意図に応じて材料を集めたり優先順位を考えたりするなど、集めた材料を関係付ける力が十分に身につけていないことなどが考えられます。
- 解答時間終了後に行う質問で「国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」に対して、「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた割合が、前年度よりはかなり改善したものの、全国より下回っています。

## 改善の方向性

- ・低学年から、基礎基本の力が身につくように、音読や視写の指導を取り入れていきます。
- ・日常的に主語が何かを意識して、文章を読んだり書いたりするように指導していきます。
- ・複数の情報を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして整理することは、伝えたいことが明確になることを、児童自身が実感できるような指導を行っていきます。
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する授業を、充実させていきます。
- ・事実と考えを区別して書くことができていない児童には、主語や文末表現を意識して文章を見直すように促すなど、教師が個別に指導していきます。
- ・教師がモデルとなる文章を提示したり、児童同士で書いた文章を読み合い確かめ合う場面を設定したりすることで、児童自身が書き表し方を工夫できるようにしていきます。
- ・書く機会をあらゆる場で設定するとともに、「何を・どのように書くか」を、国語はもとより全教科で意識して指導していきます。

## (2) 小学校 算数

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校算数			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 $350 \times 16$ の積の求め方と答えを書く。 (記述式)	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。	49.6	57.6	56.9
3 (1)	作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選ぶ。 (選択式)	直方体の見取り図について理解し、かくことができる。	79.4	85.8	85.5
3 (3)	直径2cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。 (短答式)	球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。	28.8	33.8	36.5
4 (2)	3分間で180m歩くことを基に1800mを歩くのにかかる時間を書く。 (短答式)	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。	63.5	67.4	70.0

**概要**

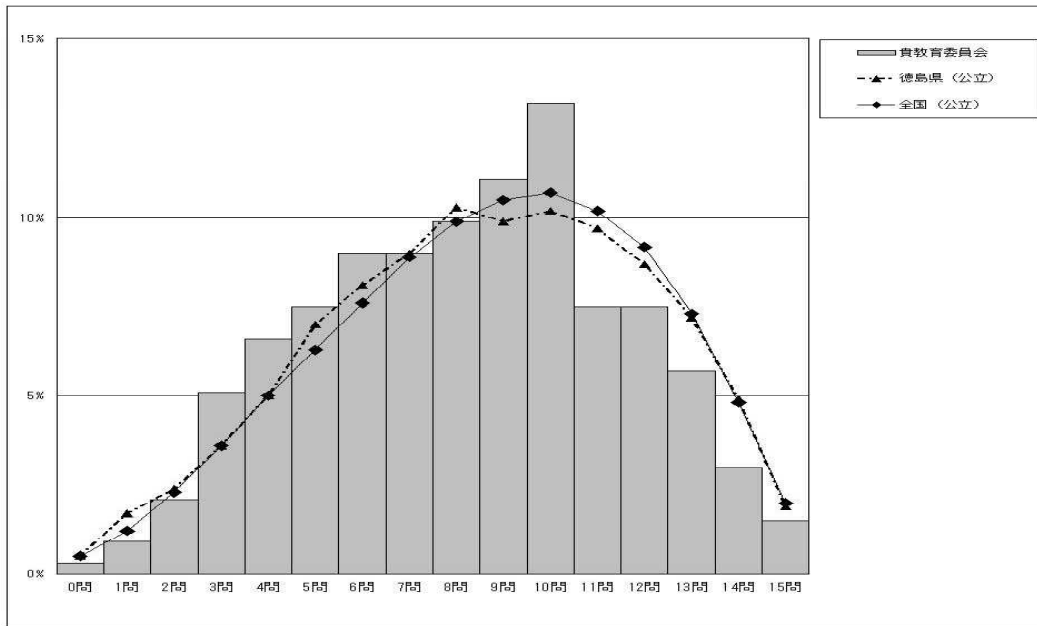
- 学習指導要領の領域「図形」は、正答率が全国・県を5%近く下回り、課題が見られます。
- 評価の観点である「思考・判断・表現」は、正答率が全国・県を4%下回り、課題が見られます。
- 2(1)、3(3)、4(2)から、身に付けている知識・技能を活用したり、必要な情報を選んだりして問題を解くことに課題が見られます。
- 答えを導き出した理由や求め方を、図や式、言葉で記述したり説明したりすることに、苦手意識をもっていることが考えられます。

**改善の方向性**

- ・低学年から、答えを出すだけに終わらず、わけや求め方を、図や式、言葉で記述したり説明したりする活動を大切にしていきます。
- ・問題解決の際、何を問われているのかを明確にし、解決に必要な情報を選んで活用したり、生活場面を基に考えたりできるような授業を行っていきます。
- ・具体的な数値が示されない場合においては、必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導していきます。
- ・数学的な思考を身に付けるため、児童自らがめあてを考えたり、活用する既習事項を選び出す授業を工夫していきます。
- ・授業では、一度の発言、一部児童の発言にとどまらないように、根拠を明らかにするような問い返しや、別の児童に説明する機会を設け、主体的・対話的で深い学びとなる活動を取り入れます。

### (3) 中学校 国語

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

中学校国語			平均正答率 (%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
2 四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。 (記述式)	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。	36.0	40.5	42.6
3 四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。 (記述式)	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	39.6	42.9	49.3
4 一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する。 (選択式)	表現の技法について理解している。	49.8	54.6	54.9

#### 概要

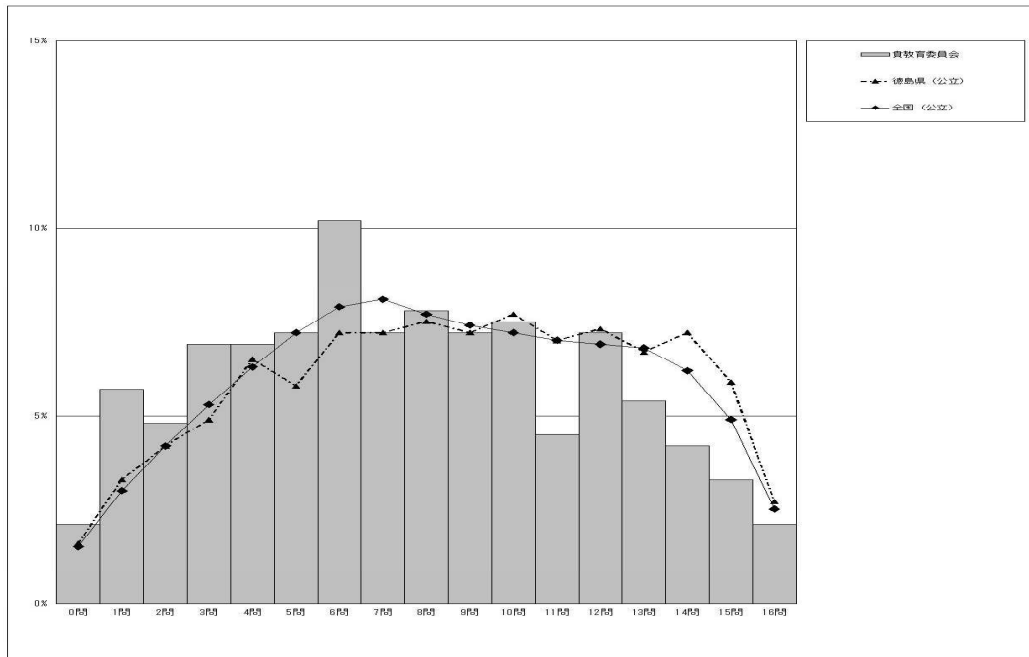
- 学習指導要領の内容では、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が全国を5%近く下回り、「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」、問題形式の「記述式」の正答率は全国から5%以上、下回り、課題が見られます。
- 2四から、目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題があります。
- 3四から、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題があります。また、この設問の無解答率が24%であり、全国から9%高くなっています。

#### 改善の方向性

- ・ 文章を読んだり書いたりする機会を、全学年で、国語科はもとより全教科で計画的に設定します。
- ・ 伝える対象や目的を意識して、必要な情報に着目して要約する活動を、授業の中に取り入れます。
- ・ 文章を読んで内容を理解したり、理解したことを伝えたりするには、目的に応じて必要な情報に着目して要約することが大切であることを、生徒自身が実感できるように指導していきます。
- ・ 表現が工夫されている文章を読んだり、効果を考えたりする言語活動を、意図的に行います。
- ・ 伝えたいことを明確にし効果を考えながら工夫して記述したり、伝えたいことが読み手に伝わっているかを確認して推敲したり、友達と読み合ったりするなど、知識と活用場面を結びつける指導を積み重ねていきます。

#### (4) 中学校 数学

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

中学校数学			平均正答率 (%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
6 (3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図形において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する。	総合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる。	31.4	42.6	41.8
7 (2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する。	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる。	19.5	25.6	25.9
7 (3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ。	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。	37.4	46.6	48.5
9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基に証明する。	筋道を立てて考え、証明することができる。	19.8	26.9	25.8

#### 概要

- 学習指導要領の領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」では、いずれも正答率が全国・県を下回っています。特に、「データの活用」は、全国・県との正答率の差が大きくなっています。
- 評価の観点の「知識・技能」「思考・判断・表現」、どちらにも課題が見られます。
- 全国・県と比較して、特に正答率が下回っている評価の観点は「思考・判断・表現」です。
- 「思考・判断・表現」の問題は、すべて問題形式の「記述式」となっており、「記述式」問題は正答率が低いだけでなく、無解答率もかなり高くなっています。
- 7 (2) 9 (1) から、解決の過程の方法や判断の理由などを数学的に表現することに課題が見られます。

## 改善の方向性

- AI ドリルを積極的に活用し、個別最適な学びの場を増やすことにより、基礎的な知識・技能を身に付けていきます。
- 数学と日常生活が関係している題材を、各単元に一度は取り扱うことで、数学が日常生活の問題を解決するための有効な手段であると認識させ、数学に対する興味・感心を高めていきます。
- 解決の方法や手順を説明をする、根拠を明らかにし筋道立てて理由を説明する場面を設定することで、考え方をアウトプットしたり数学的な表現を用いてよりよい説明に練り上げたりする活動を、授業の中で意図的・計画的に取り入れます。このことで、数学的な表現や考え方を学べるようにし、生徒自身が活用できるようにしていきます。
- 四分位範囲の必要性と意味について理解できるように、箱ひげ図の箱の位置などと関連付けて、データの分布の傾向について考察する場面を、授業の中で設定していきます。

## 6 児童生徒質問紙による調査結果

### (1) 肯定的な回答の割合が、全国を上回っている項目より

#### 小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R 6年度全国学力・学習状況調査報告書」 (文部科学省国立教育政策研究所) 参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一 国 (%)
2	毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。 【基本的な生活習慣等】	87.1	82.9	4.2
20	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 【学習習慣、学習環境等】	84.4	80.7	3.7
30	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	85.5	81.9	3.6
54	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数)】	81.6	77.9	3.7
63	英語の授業の内容はよく分かりますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(英語)】	84.5	78.3	6.2

#### 中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R 6年度全国学力・学習状況調査報告書」 (文部科学省国立教育政策研究所) 参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一 国 (%)
10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	93.6	90.4	3.2
11	将来の夢を持っていますか。 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	72.3	66.3	6.0
16	学校に行くのは楽しいと思いますか。 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	86.7	83.8	2.9
45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】	92.1	90.6	1.5
53	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(数学)】	83.7	78.5	5.2



(2) 回答率が全国を下回り、課題と考えられる項目より

**小学校**

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R6年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
4	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)。「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答 【基本的生活習慣等】	15.0	19.8	-4.8
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答 【学習習慣、学習環境等】	47.2	54.6	-7.4
22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。「4時間以上」「3時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答 【学習習慣、学習環境等】	43.9	48.6	-4.7
27	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答 【ICTを活用した学習状況】	69.2	85.5	-16.3
56	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数)】	60.9	63.6	-2.7

**中学校**

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R6年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
7	携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを、守っていますか。 【基本的生活習慣等】	63.9	72.2	-8.3
28-1	1・2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。 【ICTを活用した学習状況】	72.0	80.2	-8.2
29	1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	58.2	64.8	-6.6
38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳】	73.5	82.2	-8.7
64	1・2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(英語)】	71.7	82.4	-10.7

## 7 クロス集計の結果より

クロス集計で選択肢ごとの平均正答率を比較していますが、調査数が多くないため、ごく少数の回答結果の影響を受けることもあります。このことをふまえた上で、傾向と改善の方向性を★に示しました。  
網かけ部分は、各教科の平均正答率が最も高いことを表しています。

### 小学校

(1) 朝食を毎日食べていますか。		【基本的生活習慣等】			
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	している	338	81.4	67.2	64.0
2	どちらかといえば、している	39	9.4	59.0	55.1
3	あまりしていない	33	8.0	47.6	42.2
4	全くしていない	5	1.2	34.3	33.8

★朝食を毎日食べている児童は、正答率が高くなっています。早寝・早起き・朝ご飯の大切さを、子どもはもとより家庭へも伝え、学校と家庭とが一体となって基本的生活習慣の定着に努めます。

(15) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。		【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】			
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	当てはまる	301	72.5	66.4	63.3
2	どちらかといえば、当てはまる	102	24.6	60.6	56.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	8	1.9	49.1	46.9
4	当てはまらない	4	1.0	51.8	48.4

★人の役に立ちたいと考えている児童は、正答率が高くなっています。自他を大切にする気持ちや社会への貢献のすばらしさを授業内外で伝え、家庭と連携して子どもたちを育てていきます。

(29) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。		【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】			
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	発表していた	92	22.2	71.5	70.4
2	どちらかといえば、発表していた	185	44.6	64.1	60.1
3	どちらかといえば、発表していなかった	104	25.1	61.4	57.2
4	発表していなかった	30	7.2	59.5	56.5
5	考えを発表する機会はなかった	4	1.0	39.3	28.1

★自分の考えをうまく伝えるために、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した児童は、正答率が高くなっています。自分の考えを工夫して伝える機会を授業に積極的に取り入れていきます。

(48)	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】			
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%) 国語(14問) 算数(16問)
1	当てはまる	142	34.2	71.9 68.9
2	どちらかといえば、当てはまる	214	51.6	61.3 57.9
3	どちらかといえば、当てはまらない	49	11.8	59.5 54.5
4	当てはまらない	10	2.4	52.1 51.3

★自分の考えが伝わるように、工夫して文章を書くことの大切さを表している結果です。今後も書く機会とともに、モデル文の提示や互いの文章を読み合う場面を、数多く設定していきます。

国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。 【各教科に関する調査の解答状況】			
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%) 国語(14問) 算数(16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	325	77.9	69.6 66.3
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	81	19.4	48.0 45.2
3	書く問題は全く解答しなかった	7	1.7	30.6 17.9

★最後まで書こうと努力した児童は、国語・算数ともに正答率も高くなっています。今後も最後まであきらめず、学習や生活に取り組もうとする「やり抜く力」と「書く力」を育てていきます。

## 中学校

(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 【学習習慣、学習環境等】			
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%) 国語(15問) 数学(16問)
1	している	91	27.3	59.2 56.3
2	どちらかといえば、している	166	49.8	53.9 46.6
3	あまりしていない	64	19.2	54.4 41.4
4	全くしていない	9	2.7	39.2 26.4

★自分で学び方を考え、工夫することができている生徒は、正答率も高くなっています。授業で、分からない時や知りたい時の学び方を教えるとともに、分かった時の充実感や成功体験を重ねられるような授業を工夫していきます。

(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】			
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%) 国語(15問) 数学(16問)
1	当てはまる	79	23.7	62.4 57.7
2	どちらかといえば、当てはまる	168	50.5	53.4 47.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	70	21.0	51.7 40.4
4	当てはまらない	11	3.3	49.3 31.8

★振り返りの大切さを表している結果です。授業の前後や1年間など、自分自身の成長を、生徒が実感できるような振り返りや歩み、キャリア・パスポート等の在り方を工夫していきます。

(49)	国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】				
	選択肢	生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	84	25.2	63.9	55.4
2	どちらかといえば、当てはまる	182	54.7	53.7	46.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	57	17.1	47.8	41.9
4	当てはまらない	8	2.4	38.1	33.6

★全国学力・学習状況調査問題(国語)で課題となった要約について、質問調査からも生徒自身が、難しさを感じていることが考えられます。要約の仕方を学べるよう、授業改善を行っていきます。

(55)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(数学)】				
	選択肢	生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	134	40.2	61.6	60.4
2	どちらかといえば、当てはまる	122	36.6	50.7	41.9
3	どちらかといえば、当てはまらない	58	17.4	49.8	33.7
4	当てはまらない	17	5.1	50.8	32.0

★あきらめずにいろいろな方法を考えている生徒は、国語・数学ともに正答率がかなり高くなっています。既習事項を活用したり、様々な解決方法を説明したりする活動を多く取り入れていきます。

数1	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。 【各教科に関する調査の解答状況】				
	選択肢	生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(15問)	数学(16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	142	42.5	63.8	61.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	162	48.5	49.5	38.2
3	書く問題は全く解答しなかった	27	8.1	41.0	27.1

★言葉や数、式を使って説明することに、最後まであきらめずに取り組んでいる生徒は、正答率が高くなっています。授業や家庭学習の中で、説明したり書いたりする問題を多く解いたり、式だけでなく言葉や図等で書く方法を伝えたりしていきます。

## 8 今後の取組方針

学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。

- 本調査の結果と分析から、「学力」を多面的に捉え直すとともに、「学力向上において目指す本市の児童生徒の姿」を明確にし、その具現化を図ります。
- 今年度、重点的に取り組むこととして、①「やり抜く力」②「書く力」この2点の育成を本市共通テーマとします。各校で作成している「学力向上《焦点化シート》なると版」に記載するとともに、各校の実態に即した具体的方策を立て、組織的・継続的に取り組みます。
- 本調査の調査結果を各校において分析する中で、児童生徒のつまずきがどこにあるのかを把握します。各校で、課題を各教科等の年間指導計画にも反映させ、系統性を持たせて継続的に取り組んでいけるよう、カリキュラムマネジメントを推進します。
- 「なるとうざっ子学力向上パッケージ事業」において、本市独自の特色ある教育を実施し、児童生徒の学びに向かう力や学力を育み、一人一人の無限の可能性を伸ばします。
- 児童生徒の学力向上につながる学習支援・生活支援の具体的な方法について、学力向上推進委員会、校内学力向上推進員情報交換会、市教委指導主事会で検討・共有し、市全体で取り組んでいきます。
- 児童生徒の「知識・技能」の定着、「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組めます。
- 児童生徒の課題をふまえ、若手教職員研修をはじめとする教職員の研修内容の充実を図ります。
- 目標をもち、あきらめずに努力できる子どもを育成するためにキャリア教育をはじめ、学校の教育活動全体の中で、やり抜く力や自制心など、非認知能力の育成を図ります。
- 就学前教育・保育施設、小・中学校における連携を深め、「学びの連続性」を意識してともに取り組んでいきます。
- 家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図ります。

家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。

- 「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣の定着を図りましょう。
- 時間の使い方について、お子さんとよく話し合い、スマートフォンやゲームの使用時間、学習や読書、運動時間を決定し、望ましい学習習慣、生活習慣の定着を図りましょう。
- 地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
- 地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
- 夢や目標について話し合い、物事をあきらめず、根気よく最後まで取り組めるような言葉かけをしましょう。
- お子さんとの会話を大切にしましょう。学校での出来事や友達のこと、興味をもっていることなどを語り合い、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。
- 学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。